

令和4年度 第3回東大和市まち・ひと・しごと創生会議 会議要録

会議名 第3回東大和市まち・ひと・しごと創生会議
開催日時 令和4年11月12日（土）午前9時30分から午前11時30分まで
開催場所 会議棟第1・2会議室
出席者 （委員）牧瀬委員（座長）、小島委員（副座長）、目黒委員、佐近委員、黒岩委員、市川委員、高橋委員、米澤委員、岩田委員、稲葉委員、野村委員、前村委員
（事務局）神山企画財政部長、田代総合戦略推進担当課長、神山企画政策課政策推進担当係長
会議の公開・非公開 公開 傍聴者 0人
会議次第 1 開会
2 座長あいさつ
3 内容
(1) 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策の効果検証について
(2) 前回の会議以降の取組について
(3) まち・ひと・しごと創生に関する意見交換

会議の結果及び主要な発言

(1) 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策の効果検証について

事務局から、内容（1）について説明をした。

【要旨】

・前回の会議において委員より聴取した、まち・ひと・しごと創生総合戦略（補正版）の取組に対する意見について、外部有識者意見欄にまとめたことから、事務局にて説明した。

委員：

人口減少は避けては通れない部分であると思うが、その中でどう活力を維持していくのが非常に重要な課題であると認識している。

座長：

その他意見は無いようなので、この内容にて公表することとする。

(2) 前回の会議以降の取組について及び(3) まち・ひと・しごと創生に関する意見交換

事務局から、内容（2）について報告した。

【要旨】

・関東学院大学牧瀬ゼミナールの大学生による東大和市魅力「彩」発見ポスター制作事業について、これまでに第3弾ポスターまで制作した（第3弾ポスターは11月中公表予定）。
・令和3年度に実施した市民アンケートについて、「転入者、転出者及び子育て世代アンケート（令和3年度実施）」として取りまとめ、9月に公表した。また、今年度は、追跡の調査として、家屋調査実施時アンケートを実施している。
・戦略的な認知度向上の取組について、多摩モノレールを利用する子育て世帯への市PR広告（ドア横ステッカー）を掲出した（掲載期間：令和4年9月30日～令和5年3月29日の6月間）。また、宅地建物取引業協会立川支部東大和ブロック会員7社に対して、市PRリーフレットを配布した。

・令和4年1月から10月までの人口動態について、当市及び隣接自治体の動向を報告した。当市は、自然減が昨年以上のペースで進行している（-390人）のと合わせて、社会減（-66人）となっており、人口減少が進んでいる。一方で近隣自治体では、自然減を大きく上回る社会増により、人口が増加している傾向にある。

委員：

東大和市魅力「彩」発見ポスター制作事業について、前回会議での発言を踏まえ、ポスターのサイズを大きくしていただき感謝している。当事業は、他自治体からも注目されていると聞いており、第3弾ポスターについても今後どのように展開していくのかを楽しみにしている。こうした取組は、大学生の若い感性が活かされているのだと感じた。

また、今年度第1回会議の際に事務局より、今年度実施予定事業について説明を受けたが、その進捗について伺いたい。人口減少はやむを得ないと思うが、限られた人口を行政間で奪い合う状態となっている以上、民間で言えば営業活動に当たると思うが、当市でも「市を売り込む」取組を行っていく必要があると説明を受けたと記憶している。そういった意味では、過去の政策集団PDGの提案内容の事業化の検討とあるが、過去に良い提案がたくさんあったと記憶している。また、認知度の向上としては、メディアを有効に活用して、テレビ番組の誘致等を検討するとしていたが、進捗はどうなっているのか。東村山市では、「高校生の無駄遣い」というアニメの舞台場所をスタンプラリーで回ってもらうという企画を始めている。こうした市の売り込みを積極的に行っていくのはどうか。また、「子育て支援サービスの埼玉県との比較」についてであるが、埼玉県をターゲットとしている点では、戦略的な分析ができるのではないかと期待している。こうした、今年度実施予定事業の進捗について伺いたい。

また、市民アンケートについてであるが、転入者のうち20歳代～30歳代の若い世帯が全体の約6割を占めており、今後の合計特殊出生率向上に期待ができると感じた。そして、これら世帯の転入理由のうち約25%が住宅購入を挙げており、比較的高いと感じた。また、子育て世帯アンケートによると、子どもを3人産み育てたいと考えている方が約30%であったが、想定よりも高いと感じた。子育て世帯が住宅購入のために転入し、多くの子どもを産み育てられる環境を整備することができれば、合計特殊出生率の向上及び社会増につながっていくと感じた。また、当市を選んだ理由として「住宅価格・家賃」が最も多いが、各自治体は転入増のために住宅支援制度や家賃の補助制度を導入する等して、人口の奪い合いが今後さらに激化していくと予想させる。具体的には、八王子市では、市内に大学が多い関係で、5年間の定住を条件に奨学金を最大50万円支援するという制度を導入している。転入者を増やすという意味では、住宅支援制度、家賃補助制度を始め、希望出生率に近づけるための手厚い子育て支援を実施していく必要があると考える。また、当市をどのようなことを通じて知ったかという設問に対しては、口コミや鉄道で知った方が多いことから、鉄道への広告活動をもう一度再考してみても良いと感じた。アンケートの中で1つ気になったことが、市内公共交通が不便であるという点である。当市にある鉄道駅は、いずれも市の端にあることから、その補完として「ちよこバス」があるが、ルートや本数を見直す必要があるのではないかと。あるいは、現在、芋窪地区でコミュニティタクシーの試行運行をしているが、この結果によると思うが、シェアサイクル等の新しい補助交通手段を再検討してみる必要があるのではないかと。しかし、採算を考えると難しい点もあるため、逆に弱点は弱点として、むしろ良い点をもっとPRした方が良いという考えもあると思う。自然豊かであり治安が良いという良い点が、交通不便である点をカバーできるよう、魅力を強調して発信していくと良いと思う。

座長：

政策集団PDGでは、庁内の若手職員が特定のテーマについて政策研究し、理事者に研究結果をプレゼンしている。その中で良い提案は事業化に向けた検討をしている。委員より今年度予定事業の進捗について質問があったため、事務局に説明を求める。

事務局：

今年度実施予定事業について、第1回会議資料を持参している方は、資料10を確認いただきたい。政策集団PDGの提案の事業化の検討について、令和2・3年度と2年間にわたり、「公民連携」をテーマとして取り組みを進めた。いくつか提案があった中の1つとして、納税通知書への空き家防止チラシの同封があるが、これは、主管課である都市づくり課が、空き家対策計画に空き家対策の取組事例の1つとして掲載することとなった。また、もう一例として、企業と連携した「桜プロジェクト」という桜の植樹事業についてPDGより提案があった。本件については、事務局で深掘りをして、桜の回廊の実現につながるよう、効果等を考えながら少しずつ情報収集していく予定である。

また、認知度の向上について、外部媒体の積極的な活用として、「なんでも鑑定団」の誘致に向けて積極的に情報収集している状況である。番組制作会社と連絡調整をしており、実施に向けた最終判断をしていく段階である。認知度の向上に向けた取組であるが、東大和市魅力「彩」発見ポスター制作事業は、第1回会議の中で委員より、「多摩湖が東大和市にあると認知されていない」とのご発言がきっかけとなり、事業を開始したところであり、多摩湖をテーマとした第1弾ポスターは、結果的にテレビ番組で紹介される等、多くの露出をすることができた。また、イトーヨーカ堂様の協力により、店舗2階に市政情報コーナーを設置し、市からのお知らせや魅力や特長の情報発信をしている。

また、戦略的な情報発信についてであるが、YAHOO!の検索サイトを使った市のPR広告の掲載を今年度も実施予定である。また、通勤通学の中で東大和市のことを知ったという委員のご発言もあったが、多摩モノレールにPR広告を掲出しており、モノレール1車両につき1か所ドア横ステッカーを掲出している。通勤通学の中で目を触れて東大和市の良さを認知してもらい、当市のことを検索してもらう取組も進めている。また、不動産会社へ市PRリーフレット置いてもらい、住宅選びを迷っている方に対して、不動産会社が、「東大和市は良いまちですよ」と言ってもらえると非常に効果があると思い、取組を進めている。また、「子育て支援サービスの埼玉県との比較」についてであるが、埼玉県との子育てサービスの比較は現時点では未着手であり、どのように進めていくか検討している段階である。

座長：

ポスターの活用方法については、制作して終了ではなく様々な方法で活用していけたらと考えている。具体的には、ポスターを絵葉書にして市ホームページに掲載することや名刺の裏側に印刷することやオンライン会議の背景として設定できないかと考えている。

委員：

第3弾ポスターのテーマが「大多羅法師」であるが、頭像付近に慶性門がある。市で管理していると思うが、慶性門の現状は屋根が崩落しており見るも無残な姿になっている。慶性門は市の北側の玄関でもあり多くの方が目にするため、何とかしてほしいと思う。

また、多摩湖をテーマとした第1弾制作ポスターについてであるが、キャッチフレーズに「すみません」が入っている点に違和感を覚えた。たしかに多摩湖の一部は東村山市であるが、ほとんどが東大和市であるため、もっと堂々と訴えかけてほしかった。

また、空き家対策について話があったが、湖畔地域は地区計画により分筆ができないため、住宅の更新が進まず、結果として空き家が増加してしまっている。治安上も良くないため、地区計画の在り方を空き家対策計画と合わせて再検討してはどうか。以前、桜が丘地域の工業団地にて地区計画の変更が検討されたが、地権者の反対により実現されなかった。私所有であるため行政ができることに限りはあるが、そろそろ高齢化社会に向けた地区計画の有り様は考えるべきであると考えます。

座長：

多摩湖をテーマとした第1弾ポスターは、計11作品が制作された。選定されたポスターを制作した学生の解説によると、「冒頭に謝罪を入れることで、意識をポスターに引き付けることができる。」「端的に「多摩湖が東大和のもの」であることをアピールすることにより、多摩湖は東大和市域に入っていることを理解してもらおう。」としている。

副座長：

第1弾ポスターについては、様々な魅力的な作品があったが、東村山市にも配慮し、市長が総合的に判断して選定したものである。結果的に東村山市がテーマのテレビ番組にて、東村山市市長に当ポスターに対するコメントもいただけたところである。

また、慶性門の管理について、状況が良くないことについては理解しているところであるが、材料がもう手に入らない現状もあり、慶性門の管理は、文化財の専門の方のご意見を参考に研究していきたいが、多額の費用を要することが課題である。

また、大多羅法師については、今後どのように活用していくか考えていきたい。

また、湖畔地域の空き家については、開発当時の人々がまちの景観維持のために宅地を分筆して切り売りしないようにしたいという総意があったと捉えている。ただし、これからのまちづくりに関して、人口減少の速度を最大限抑制するためには、どのようなまちづくりを進めていくべきなのか検討していきたい。

委員：

感想を含めて違う視点からお話したい。外へのPRを続けているが、もう辞めても良いのではないかと感じている。理由としては、市民アンケートによると、転入者の中で、子育て環境が良いところを転入理由としている方が少なく、市のPRがターゲットに届いていないと読み取れるためである。届いていないのであれば発信せず、逆に内側に対してPRしていくべきではないだろうか。つまり、住んでいる方に対してPRしていくべきではないだろうか。例えば、待機児童が0人になったことは良いことであるが、どの自治体でも待機児童は少なくなっているため、それを喜んではいけな。つまり、その次に何をやるかを考えなければならない。その時にアピールするのではなく、内側に向ける必要があると考える。子育ての面もそうであるが、ある自治体の例をお伝えすると、PDGのような取組は実はどの自治体でも実施しているが、そうではなくて、若い職員が職場の働き方改革について考える取組をしている例もある。結果的に何が起きるかという、市役所の中が元気になる。市役所が元気になれば、そこに訪れる市民がその市のことを好きになっていく。こうした効果を狙って取組を進める自治体もある。確かに政策提言やプロモーションも大事ではあるが、逆に「東大和市は子育てがこんなに進んでいるんだ」という言葉が市民から出てくれば、認知するきっかけとして上位である口コミにつながることから、より内側に向いても良いのではないかと考える。例えば、当市にはお土産品が少ないことが挙げられているが、今から特産品を開発することは、とても大変であると思う。当市と同規模で先行している自治体を追い越さなければならなくなり、非常に難しい取組になってしまう。そうであれば、違う方向にシフトしていくことも考えて良いのではないか。

座長：

本件について、事務局に説明を求める。

事務局：

戦略的にYAHOO! 広告を活用して近隣市をターゲットとしたPR等をしているが、一方で市民に対するPRも疎かにしてはいけないとも考えている。待機児童対策の次は教育施策に力を入れる方向性も出している。また、庁内の働き方改革については、庁内の会議でも意見が出ており課題として捉えている。働き方改革と合わせて職員が一丸となり、市が人口減少抑制等に対して、どのような方向に進んでいくべきか考えていく必要があると考える。また、そのための環境整備等も必要であると考えている。

また、お土産品については、一足飛びではなかなかできないと思うので、身の丈に合ったやり方をして、当市の特長を出していく必要があるのではないかと考えている。

委員：

第3弾ポスター「大多羅法師」について、「東大和市在住ダイダラボッチ」となっているが、「在住」の所を「東大和市〇〇」と住所地に変更した方が、より分かりやすくなると思う。可能な限り固有名詞を活用した方がPRしやすいと感じた。

委員：

資料の中にスイーツグルメのリーフレットを入れていただき感謝している。拝見すると、「こんな良い所があるんだ」と私自身知らないお店もあった。特産品の包装についてであるが、外部有識者意見欄にも記載があるが、現状では個々の販売会社がそれぞれの包装をしていることから、個々の販売会社が共同で「東大和市名物」であることを載せたPR包装を開発できたら良いと思う。

また、旧日立航空機株式会社変電所について、東大和市以外の小学校を対象として、歴史教育のための社会科見学を誘致することはできないか。同変電所に関しては、市民の認知度は高いと思われるが、近隣自治体の住民にはあまり知られていないようである。そこで、多摩湖と合わせて近隣自治体の小学生に来てもらうことで、その小学生を通じて親にも伝わり、結果として、市の認知度が向上すると思う。

また、自治会の加入率の低下が進んでいるが、そもそも自治会に加入するメリットは何なのだろうかと考えてしまう。私自身、当市に転入した際に特に自治会からの勧誘が無かったことから、この地域には自治会は無いのだと認識した。自治会に入るメリットを明確に提示できるのであれば、自治会加入率低下を抑えることができると思うが、何か対策をしているのか伺いたい。

副座長：

自治会に入ることによるメリットを打ち出すことは、非常に難しいと考えている。仮に強くメリットを打ち出すことができるのであれば、自治会加入率30%を割ることは無いと思う。マンションや団地等の共同住宅では、管理組合を結成して、住民全員が参画しているが、一方で、現在の自治会は、地域で長く生活してきた方を中心に活動しており、新たに転入してきた方への勧誘はあまり行っていないようである。自治会は、災害時における自主防災組織としての役割もあり、行政として重要であると考えているが、一方で、自治会に加入している人と加入していない人とで行政サービスに差を付けることもできない。皆さんの意見を聞きながら、効果的なPRをしていきたいと考えている。

委員：

以前住んでいた自治体では、自治会を組織して街路灯を設置することで電気代を補助する取組があった。子どもの安全安心のために、街路灯を整備する目的で自治会が組織されたこともあると聞いている。この例のように、何か自治会に加入することによるメリットを創出できると良いと考えている。

委員：

先日の総合防災訓練では、校長の判断で中学3年生が授業として参加した。その様子を見た地域住民は、「若い世代が防災に関心を持って取り組んでいる姿を見て、安心して地域で暮らすことができる」と感想を述べていた。また、生徒からは、「いざという時にどうすれば良いか分からず不安であったが、総合防災訓練に参加して応急手当等様々なことを体験することで自信を持つことができた」と感想を述べていた。こうした取組を通じて、地域の方にとって住みよい場所であることが浸透していくと良いと思う。

また、私が加入している自治会の加入世帯数は、9世帯と非常に少ない。付近に建売住宅ができたが、そこに移り住んだ方は全く自治会に加入していない。正直なところ、自治会が何に取り組んでいるのかが分からないといった状態である。自治会員として、取り組む内容を明らかにしていかなければならないと感じている。

委員：

現在悩んでいることであるが、当行の支店には、23人の従業員がおり、そのうち5人が小学校入学前の子どもを子育てしている女性である。いずれも市外在住であるが、小学校入学後に学童に入れることができない場合、仕事を辞めざるを得ない可能性がある。また、保育園の延長保育が19時までであると、本来の業務時間である19時まで勤務ができないことから、このまま仕事を続けていくことが困難であるとの相談を受けている。こうした観点から見ると、学童が充実していることや保育園の預かり時間に柔軟性があることは、働いているお母さんからすると非常に助けになると考える。当市は、待機児童は0人であると報告をいただいているが、学童や保育園の充実を図ることで、働きながら子育てする人が安心して働き続けられる環境とすることができると感じている。

また、キャッシュレス決済による消費活性化事業の実施について、お客様から話を聞いたところ、非常に効果が大きいとのことである。前回は、令和4年9月に同事業が実施されたが、一方で飲食店では、同年8月の売上げが反動として下落しているとも聞いている。今回は、令和5年2月に同事業を実施すると聞いているが、一般的に2月は需要が落ち込むと聞いているため、良い時期に実施していただいていると感じている。

委員：

市民アンケートや各委員の意見を伺って感じたことであるが、最近テレビ番組で「住んでいる人が選ぶ住みやすいまちランキング」が放映されたが、多摩地域では、立川市、府中市、調布市、三鷹市及び武蔵野市はランキングに載っていたが、それ以外の当市を含めた近隣自治体は全くランクインしていなかった。そのまちを選んでいる理由については、「住んでいる自治体のコスパ」や「商業施設がある」等を総合的に判断してランキングにしているようである。そうすると、当市が目指す方向性が、総合的な住みやすさを目指すのであれば、立川市や府中市等に追いつき追い越すことは不可能であると思う。では、どの点をピンポイントにアピールしていくべきか、ということになるが、アンケートを拝見すると、「土地や家賃が安いこと」及び「近隣の就業先に行きやすいこと」の2点に集約されてくる。

以上の現状を鑑みると、市役所内に就職相談室を設置していただいているが、相談に訪れる方に対して、東大和市内の就職先を紹介することが正しいのだろうかと考えるようになった。東大和市内で働くのであれば、比較的短時間の業務や介護業務に特化した合同就職相談会を開催し、逆にそれ以外であれば、安く住めることを利点として、当市に住みながらも近隣の商業施設がある自治体に就職先を探せるような仕組みを構築する等、これまでの方向性を変更させていかなければならないと感じた。当会議で得た情報を職場に持ち帰り、今後どのような就業支援をしていくべきか検討していきたい。

座長：

是非持ち帰っていただき、方向性が出たら報告していただきたい。個人的に当市は立川市の衛星都市であると考えているので、その特性を踏まえてどのように取り組んでいくか考えていきたい。

委員：

市民アンケートの結果からも、東大和市に転入を決めた理由の上位が家賃の安さや住宅価格であることから、より東大和市の良さをPRして、東大和市を訪れてもらい、東大和市の良さを知り愛着を持ってもらうことで転入してもらうことが大事であると感じている。店舗2階に市の情報発信コーナーを設置し、関東学院大学の大学生が制作したポスターも掲示しているが、多くのお客様が足を止めて見てくれている。このような取組によって、東大和市のことを知ってもらう取組は非常に大事である。また、情報発信の方法については、テレビ等のメディアを活用することが最も効果的であり、当店でも重視している。

また、特産品については、当店のお土産コーナーにて、「東大和市産の特産物がありますか？」とよく聞かれるが、良い提案ができない現状があるので、すぐには確立することは困難であると思うが、店舗として協力できることはするので、必要に応じて相談していただきたい。

また、東大和市の認知度向上についてであるが、食品ロス対策の一環である「フードバンク」の取組について、テレビCMで東大和店の取組の様子が使われると聞いている。こうした観点からも、東大和市の良さを知ってもらう取組を進めていきたいと考えている。また、東大和店では、令和5年の年初めに「昭和レトロ展」というイベントを企画しており、東大和市の昔の様子等を展示する写真展を開催する予定であり、こうした取組からも東大和市を発信していきたい。商売の観点からだけではなく、CSRの観点からも社会課題解決のために取り組んでいきたいので、何か連携ができることがあれば教えてほしい。

また、スイーツグルメのガイドブックを拝見したが、東大和市にはまだ知らない魅力的なお店がこんなにもたくさんあるのだなと感心した。地域の魅力のPRについても、店舗として取り組んでいきたいと考えている。

委員：

今全国の公立小中学校でコミュニティスクールの発展に力を入れていると思うが、高齢者支援の観点から、例えば、高齢者が高齢を理由として農地を活用できないことがあれば、地域の小中学生が、その高齢者と交流できる場として活用させてもらい、合わせて、そこで特産品と一緒に作れたら良いのではないかと考えた。

また、先日、市、警察、教員及び保護者で通学路の見回りを実施したが、市有地であれば、建造物の劣化や老朽化の補修等の対応は可能であるが、私有地のブロック塀等の老朽化等は対象とならなかった。保護者としては、過去に地震によりブロック塀が倒れたという事例もあるため、私有地に対する調査を市が実施してもらえるとありがたいが、いかがか。

座長：

民有地への調査について、回答を求めたい。

副座長：

通学路を点検し、児童生徒が安全に登下校できる環境を作る必要があると考えている。委員よりご意見のあった、民有地のブロック塀についてであるが、私有地に行政が介入することは困難である、という考えが率直なところである。ただし、ご意見をいただければ、所有者に対してお願いすることまでは可能であるため、遠慮なくご意見をいただきたい。

委員：

小中学校のトイレの洋式化について、ご対応いただき感謝している。

副座長：

市のこと、学校のことをより良くしようと常に考えている。

委員：

全体を通して感じたことを述べる。市民1人1人によって、良いまちの定義は異なると思うが、それをどこまで共通項を探し出し、それを実現していくこと、その上で個々の活動に対してどのような支援をしていくかということが、今後の課題であると考えている。

また、先ほど「東大和市は立川市の衛星都市」という話があったが、私もそのとおりだと思っている。多摩モノレールが開通する前は、通学するに当たり多摩動物公園駅から歩かなければならなかったが、多摩モノレールが開通することで、交通アクセスが便利になったと実感している。こういった点もアピールできることであると思う。

委員：

情報発信について申し上げたい。市報を拝見していると、魅力的なイベント等が多く掲載されているが、文字のみであり、魅力に気付きにくい。そのため、文字の大きさを変更することやイラストや写真を入れる等して、見やすくしていただきたい。また、良いイベントがあり、参加したいと思ったが、別行事も同日程で予定されており、参加することができなかった。祝日等にイベントを企画する傾向にあると思うが、全体の日程調整について工夫してほしい。

座長：

皆様からご意見をいただいた内容は、今後の取組の参考にさせていきたい。以上で意見交換を終了する。

4 その他

事務局：

会議日程について、次回会議は、令和5年2月18日（土）午前9時30分から第6会議室で開催するので、予定の確保をお願いしたい。

5 閉会

座長：

以上で本日の会議は、終了とさせていただきます。